

受験のしおり「入試当日の心得」

いよいよ入試です、今までがんばってきた成果が問われます。最高の調子で入試会場に臨みましょう。

- (1) 朝起きたら、てきぱきと身支度をしましょう。(服装を確認しておきましょう。)
- (2) 食欲がなくても、少量でも必ず食べましょう。
- (3) 前日までに、そろえておいた持ち物を、もう一度点検しましょう。
- (4) 20～30分の余裕をもって、集合場所に出かけましょう。
- (5) 他の人がみんな偉く見えることがあります。でも、みんな条件は同じです。自分を信じましょう。
- (6) 入試会場に着くと、入試の受け方などの注意事項が伝達されるので、要点をしっかりと把握しましょう。

次の方法で伝達されることが多いです。

- 掲示板や張り紙で
- 入試会場の教室で
- 校庭や体育館で
- 放送によって

- (7) 自分ではあがらないと思ひましょう。下腹に力を入れて腹式呼吸を静かにしてみましよう。心が落ち着いてきます。
- (8) 入試会場の座席に座ったら、静かに鉛筆・消しゴム・定規・コンパス・受験票などの準備をしておきましょう。 ※もし、受験票を忘れていたら、再発行が必要です。
- (9) 問題用紙を配布され『始めなさい』の合図があってから、まず受験番号を記入しましょう。
- (10) 気分が悪くなったら遠慮せず、監督の先生に申し出ましよう。
- (11) 姿勢をよくして落ち着きましよう。音をたてたり、手わるさをしたり、キョロキョロしたりしないようにましよう。
- (12) まず、一通り問題を読み、どれから答えていくかを決めて、時間配分するくらいの余裕がほしいものです。
- (13) 問題をよく読み、答え方も読みとりましよう。大切な問いの部分に線を引いたりして、答えの間違いないようにましよう。
 - 記号で答えるのか
 - 字句で答えるのか
 - 式で答えるのか
 - 分数か小数か
 - 字数はどうか
 - 解答欄は間違いないか
 - 誤字、脱字はないか
- (14) 他の人が採点します。見やすく、読みやすい答案であるようにましよう。
 - ていねいに書く
 - 楷書で書く
 - 消しゴムの使い方
 - 字の濃さ
- (15) 最後まで、あきらめないことです。自分に難しければ、みんなも難しいのです。
 - 図に書いてみる
 - もう一度問いを読んでみる
 - 前後関係を考え直してみる
 - 他の考え方はないか
 - 同じような問題をしたことがないか



(16) 必ず見直しをすることです。やさしいと思っていても時には落とし穴があります。

○計算問題は検算してみること ○解答欄はずれていないか

(17) 時間いっぱいがんばってみましょう。そうすれば、道も開かれるはずですよ。

(18) テストが早く終わっても、時間までは何度でも見直すことです。

ほおづえをついたり、伏せたり、頭髪をいじったりは絶対にしてはいけません。受験番号をもう一度確認しましょう。

(19) 入試終了後は、忘れ物がないように気をつけ、まっすぐ帰宅しましょう。



<休憩時間の過ごし方>

- ①テスト時間中の緊張感や疲れを回復するために、遠くの景色を見たり、深呼吸をしたりして、次時の入試に臨むこと。
- ②風邪気味の方は『鼻』をかみ、必ず『トイレ』をすませておくこと。
- ③一科目終わるごとに、友だちと話したりして、一喜一憂したりしないこと。
- ④一科目失敗してもくよくよ悩まない。次の科目で取り返しはできる。
- ⑤入試会場を汚したり、また騒いだりして迷惑をかけないようにすること。

<入試会場での態度をよくしよう>

- ①鉛筆をまわしたりせず、時間いっぱいがんばること。
- ②頭髪・腕時計などに必要以上にふれないようにすること。
※会場の時計が見えにくい場合もあるので、腕時計を準備する。
- ③早くできても、机にふせたりしないこと。④周囲をキョロキョロ見たり、頭を動かさないこと。
- ⑤休憩時間の言葉づかい、廊下の通行の仕方にも注意すること。
- ⑥なにか用があるときのみ、手を挙げて入試監督者と視線を合わせます。
※不用意に入試監督者を見てはいけません。



<入試が終わったら>

- ① 連日受験の場合は、終わったことよりも次の日のことに集中しましょう。
- ② 郵送で自宅に合否結果が届く場合は、学校に結果通知書を持って来て下さい。それ以外の場合は、中学校から通知をします。
- ③ 合格の場合は、所定の手続きをしなければ合格が取り消しになりますから、おうちの方と手続きを進めて下さい。特に複数受験の場合はそれぞれの期限に注意して下さい。
- ④ 不合格だった場合は、次にどうするかを担当の先生と相談しなければなりません。気持ちを切りかえて、臨みましょう。